

第5回多摩市産業振興推進会議 議事録

日 時 令和6年11月29日(金) 午後6時00分～午後8時00分

会 場 多摩市役所 東庁舎会議室

議 題 (1) 多摩市産業振興マスタープラン素案について

報 告 (1) 第4回多摩市産業振興推進会議議事録について

(2) 今後の予定について

出席委員 会 長：松本 祐一

副会長：石原 義仁

委 員：竹内 利明

委 員：岩井 隆之

委 員：野村 和伸

委 員：木村 康二

委 員：田口 真弘

委 員：佐伯 瑞絵

委 員：佐藤 稔(都市整備部長)

委 員：磯貝 浩二(市民経済部長)

欠席委員 沖田 敏浩(委員)

神田 篤(委員)

横溝 惇(委員)

荒木 喜美子(委員)

事 務 局 麻生経済観光課長、商工観光担当：緒方、沢出

支援事業者 一般財団法人日本開発構想研究所：藤森

配布資料 資料1 委員名簿

資料2 第4回多摩市産業振興推進会議議事録

資料3 多摩市産業振興マスタープラン素案(概要版)

資料4 多摩市産業振興マスタープラン素案

(午後6時00分 開会)

- 事務局 会議の開会を宣言し、配布資料をタブレットにて確認。
- 会長 委員14人中10人の出席があり、多摩市推進会議設置要綱第6条3項に基づき会議開催が成立することを報告する。
議事録署名委員は磯貝委員と野村委員にお願いする。
- 会長 協議事項が1件、報告事項が2件あり、報告事項について事務局から説明をお願いする。
- 事務局 報告(1)「第4回多摩市産業振興推進会議議事録について」、資料2「第4回多摩市産業振興推進会議議事録」より説明、報告(2)「今後の予定について」説明を行う。
- 会長 協議事項(1)「多摩市産業振興マスタープラン素案について」、事務局から説明を求める。
- 事務局 協議事項(1)「多摩市産業振興マスタープラン素案について」、資料4「多摩市産業振興マスタープラン素案」により説明。
- 会長 本日最後に素案に関して決を採るので、細かいことも含め、意見ををお願いしたい。
- 委員 「施策07 中小企業のDX促進支援」はどういった事業になるのか。
- 事務局 来年度の事業として実施を検討している、東京都でDXによる人材育成に関する補助金がある。内容はまだ固まっていないが、例えば市内に努めている従業員に対して、DXのスキルをつけるような講習を行う。その技術を会社に持ち帰り、活躍していただく。
- 委員 環境に関し、国が推進しているので多摩市でも、ということだと思うが、脱炭素についての施策が計画にどのように反映されているのかわかりにくい。また、「拡充」、「新規」の事業が多いが、他の事業を廃止しないと予算が大変だと思うがどのように考えているのか。
- 事務局 環境配慮については、市で行っている環境政策を確認し、わかるように示すこととする。事業については、基本的に既に行っているものは継続していきたいと考えている。現在実施しているものでも工夫次第で拡充できると考えている。また、予算の関係で難しいものもあるが、部会の提案、産業振興推進会議での意見を真摯に受け止め、検討しながら実施する方向で考えていきたい。
- 委員 「施策15 ふるさと納税寄付金事業の推進」は、昨年から経済観光課の所管になり、産業振興のために使っていくことになっている。企画課の所管時は、来街促進で多摩市に来てもらうためだけのものを返礼品としていたが、今後は多摩市内で作っているものをPRしていく方向になる。返礼品による産業振興の側面と、これまで市の商工費の割合が少なかったが、今後は産業振興のために使える予算が増えることになる。そのため、ふるさと納税は、できれば拡充していきたい。すべての事業について、予算ありきの所はあるが、財源が膨らむことも考慮している。
- 会長 多摩市の産業振興はこれまで、ほぼ創業支援であった。初めて全体として産業振興が見えてきた。そこは強気で進めてもらい、予算をかけることをしてほしい。
- 委員 重点視点の所で、現在は脱炭素、DXだが、企業が抱えている一番の問題は「人材」に

なる。若い人を育てていくことが必要だが、日本は若い人が少なくなっている。そのため多様な人材を入れていく必要がある。どこを見ても海外からの優秀な人材を取り入れており、多摩市においてもそうすべきである。重点課題として、若い人の定着であり、企業で働いて物事を解決する人材の確保、これを一番の課題として掲げてほしい。

事務局 その通りだと思う。場合によっては海外の人材確保もあると思う。表現として「多様な」という言葉は重要だと思うので、記載したい。

委員 ゆとりのあるような記載をしていただき、時代に合わせて変えていくようなことが望ましい。

事務局 今後、日本の国民だけでは支えられない、海外の優秀な人材も活用していくことが考えられる。その意味でも「多様」というワードが重要になり、表現していく。

委員 「方向性Ⅲいきいきと地域で働けるまちづくり」について、海外の人を含めた多様な人材に関し、記載してほしい。

委員 多摩市でそういった人材を誘致していくべきだと思う。麻布台ヒルズの業務を行ったとき、海外の人材に多摩市に滞在してもらい、数週間前には、フランス人で週3日の労働でビザが取得できた。ただし優秀な人材になる。多摩市のゆとりある環境を生かして、そういった人材を活用していくことが考えられる。

事務局 例えば「施策 25 中小企業における中核人材育成促進」の人材に関する箇所など、方向性Ⅲの「主な取り組み」で対応する。

委員 方向性Ⅲの成果指標で、就業者の流出入数で1,300人が流出過多とあるが、周辺に比べてどうなのか。

事務局 この数値は国勢調査からだが、この場では示すことはできない。企画部門で策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、周辺市や都心への流出入の分析を行っている。

委員 市内で何人働いているかという母数はわかるのか。その数字を記載しないとわかりにくいのではないか。

事務局 第3章の現状のところでは示している。

委員 それを示したほうが良い。周辺と比べてどうなのかが気になった。また、ビジネスコンテストを多摩市で行った場合何が期待できるかを考えると、規模が拡大するビジネスというよりは、店舗を開きたいとか小規模なものが多くなると思う。多摩市でやる意味がどこまであるのかは気になる。経営塾などを受講した人が参加するのであれば意味がある。電通大では学生のアイデアコンテストを行ったが、とてもよかった。発表を受ける企業が19社で、協賛金を1社20万円とっている。その資金を学生に分配し、ものを作っている。企業は学生のアイデアに直接資金をつけることになる。企業に講評をもらったが、すぐにビジネスになるようなアイデアもあった。回を重ねるごとに良くなっており、学生によっては以前のアイデアの進化版を出す場合もある。参加する大学も広い範囲からきており、そういうところから、多摩市で起業してもらえれば、もう少し広い範囲で考えてもよいのではないか。異業種交流についてだが、東京都は異業種交流施策を古くから行っており、多摩地域にもグループがある。私が参

加しているグループは 30 年以上継続しているが、それは個々の経営者の能力が高いからだと思う。会に所属している経営者の 3 人がドクターを取った。信頼できるコミュニティとして、新しいビジネスも生まれてきた。そういったものを目指さないと、多摩市だけでおさまっているだけでは新しいものは生まれない。

会 長 重点視点の 1「脱炭素・エネルギー対策」と 2「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」は、時代の流れとして対応しないといけないものだが、今回の計画で特徴的なところは視点 3「若年層の定着促進」だと思う。推進会議の初期のころから若い人を引き付けることが大事という議論があり、今回のプランも大学生に参加してもらった。そのため、視点 3 に特徴を持たせたい。多様な人材やグローバルといったことや、多摩市にこだわりすぎないことを入れていったほうが良い。多摩市内で創業だと福祉系や店舗など偏ってくる。特徴あるビジネスコンテストを開催し、外部から面白い人が参加してくれるなどが考えられないか。多摩信用金庫で行ったコンテストの審査員をしたが、多摩地域という縛りをつけなかったことで、とても面白いビジネスプランが集まった。あまり多摩市にこだわらない要素が入るとよいと思った。

委 員 多摩丘陵は東京だが多摩地域になる。その辺は寛容にしていけないといけない。

会 長 寛容な感じが若い人に選ばれるところになる。

委 員 多摩エリアの緩いつながりが大切。

委 員 若者に定着してほしい気持ちは多摩市も八王子市も同じ。ただ、学生側からすれば、自らの将来を考えればそれは違うことになる。言葉としては、「定着促進」ではないかもしれない。若者の視点が大事。

委 員 「選ばれる」のようなイメージ。

事 務 局 第 4 章「多摩市の産業振興の目標と方向性」の中で対応していきたい。表現については会長に相談して決めていきたい。

会 長 若い人を引き付ける、単純な「定着」ではないということによいか。また目標については、「多様な主体の連携」はその通りだと思うが、そこに主体的な要素を入れてほしい。「理想がかなう」ということは、行政任せではなく、自ら働きかけなくては実現できない。こうしたいということを実現していくときに、みんなで支えたり、行政が支えていくような体制があるまちのイメージ。そういったまちに若者は惹かれるし、外国人も魅力を感じる。また、「連携」と「協働」は同じ感じなので調整が必要と感じた。

事 務 局 目標は前回の会長の総評から事務局が考えたものだが、意見をいただいたので修正していきたい。

委 員 前回の部会の後にビジネスであれば懇親会など開くが、現在は開く体制がない。異業種交流に関係して、飲食できたりするような雰囲気作りが大切である。また、キャリアのある主婦など、多摩市に眠っている人材を再発掘する必要がある。そういった人たちがおしゃれな店舗を開いたりするとそれがまちのブランディングになってくる。今発掘しておかないと、年齢層が上がったり、いなくなってしまう。ビジネスでやっているミートアップ、懇親会的なもので学生と交流していくことも必要ではないか。こういった人や企業があるということを知ってもらうには、別なカテゴリー（業種）

- 同士の交流を開催したり、開催を支援していく必要がある。
- 委員 学生の視点から見たときに学生のメリットは何か。部会の成果発表は学生にとってすごく良い機会になったと思うが、ゼミから言われたからではなく、自ら参加する動機が難しい。
- 委員 他大学の学生との交流は良いと思う。
- 委員 参加するきっかけが難しい。単位になったり、出席日数になるということであれば参加すると思うが。
- 会長 多摩大は公務員を目指している学生に声をかけた。学生にとって自治体の計画づくりに直接係われた実績になり、「ガクチカ」にもなる。そこに学生のニーズがあった。参加する理由づくりが大事になる。
- 委員 部会の成果発表の時、学生に「多摩に住みたいか」と聞いたら返事がなかった。また「無印団地だったら住みたいか」と聞いても返事がなかった。どうしてかということ、ここにはやりたいことがないから。やりたいことができる場所に行きたいということだと思う。企業としても魅力ややりがいについての発信が足りていないのを実感した。新しいことを誘致していく必要があるが、誘致される企業にとって多摩市に来る理由が見当たらない。魅力的なまちには企業は集まっている。都市の環境や住環境などいろいろな計画と連携していく必要がある。
- 委員 東京都は恵まれた支援制度が多数ある。子育て支援など、他都市と比べると格段の差がある。
- 委員 地域のアドバンテージは使うべきだ。
- 委員 都内は支援が充実しているので人口が増えないとおかしい。多摩市は宅地が高くなっているのか。
- 委員 そこまでではない。
- 委員 多摩市もニュータウンのイメージから脱却して、新しい企業体系を作っていく必要がある。その意味で新しい人材は必要になる。
- 会長 多摩市は多摩ニュータウンのイメージがあり、そこからの脱却のきっかけとして産業振興に力を入れていく。20年前は住宅しかなく、産業振興として何をしていくべきかわからなかったが、現在は変わってきた。新しいイメージをこのプランの中に入れていく。例えば、「企業誘致」も通常であれば工場を誘致して雇用を生むということになるが、そういうことにはならないし、誘致する土地も残ってはいない。若者に魅力のある面白い企業を誘致するなど別の視点が必要になる。「異業種交流」も違うとらえ方をしたほうが良いかもしれない。よくある言葉になるが、重点項目への味付けが必要ではないか。
- 委員 企業にとって、人材の採用が大変。良い会社は社員が辞めない。市の支援制度として、企業の退職者を減らす、社員が辞めないような支援ができればよい。企業にとって採用コストは負担。それは他にない産業政策で、それがあれば立地を考える企業も増えるのではないか。また、外国人のエンジニアの例だが、年間3か月はどこで働いてもよいことになっている。そういった人に団地の空き室など、場所を提供するようなことができればよい。

- 委員 インターナショナルハウスのようなイメージ。その辺は企業と協議できる住まいとしての媒体が必要になるかもしれない。
- 会長 施策 27～29 の就労支援は、就職させることに焦点があたりがちだが、やめないようにすることも大事。感覚として勤続年数3年が増えてくると組織も安定してくる。
- 委員 中小企業は、人に頼らざるを得ないところがあり、人が経験を積んでいくことが企業にとって力になるが、それが辞めてしまうと大きな損失になる。いまの若者は3年で辞めると言われているが、それは企業の言い訳で、良い会社は辞めない。
- 会長 学生も決して転職しようとは思っていない。良いところであれば働き続けたいと思っている。
- 委員 そういう環境を企業が作ることに補助金を出せば画期的である。
- 委員 1 回目の推進会議で従業員のためにバーを作ったという話があった。そのほか課題として、「駐車場がない」、「夜間はバスがない」、「昼を食べる場所がない」などあり、福利厚生を充実させて社員を留まらせている印象があった。「施策 34 健幸ワーク宣言」は、従業員が働きやすい環境を作っていくために会社が何をしていくかを宣言するものである。金銭的な支援ではないが、環境づくりの取り組みである。交通の関係も「施策 12 公共交通網の整備」として位置付けている。
- 委員 いろんな人と係わり、いろんな意見を聞くことが重要だと思う。その中で良いアイデアを聞いてもらったり、自分ではできないけど相談したり、夢の実現として仕事にならなくても素敵なことだと思う。喫茶店を長く続けていると絆が生まれてきているのを実感している。この人が言ったことは信頼できる、やってみたいといったことを繰り返し発信したいし、いろんな人の意見を聞きたいがなかなか機会がない。認知症の人や目の見えない人などと自然に係わってきたが、会としてやってみたいと思った。喫茶店なので、コーヒー代など係るが、そういった費用を市のほうで負担してもらえればもっといろんなことに係わっていききたい。そういった中でいろんなアイデアを出していきたい。
- 会長 市の創業塾は 20 年近くやっていて、先日 OB 会として多数の創業者が集まった。そういった事業者同士の集まりやまちの集まりが繋がると面白くなる。
- 委員 楽しいイベントとか。聖蹟桜ヶ丘駅の 100 周年イベントも、もっと早く知ることができたらよいアイデアがあったかもしれない。求めないと情報が入ってこないが、係わっていれば情報が入ってくる環境を整えておくのがよいと思う。
- 委員 何かやりたいと思っている人がどうしたらいいかわからないとか、誰に聞いたらいいかわからないというのが多いと思う。声を上げやすくすると、いろんな考え方に対応していく必要がある。まず、やりたい人の声を上げやすくすることを、この産業振興プランの中に入れてもよいと思う。また、住まいについては、事業所の考えもあり、3か月住んだ後の残りの9か月はどうするか、現状回復はどうするのかといったこともある。緩いつながりを維持していくためにも何らかの制度が必要ではないかと過去の経験から感じている。
- 会長 声を上げやすくするためにも普段からの付き合いが大切。なんとなく顔が見えていれば、広がりが出てくる。みんなが会える場を作るようなことが計画に入っていると面

白い。

委員 開廃業のところで、開業者が増えていくのはよいが、多摩市だけになってしまうと限られてしまう。ただ税金を考えると「多摩市」という枠が必要で難しい。多摩市で開業して融資を受けても大きくなると多摩市から出ていくことが多いので、そこを何とか食い止めたい。

副会長 市制度融資については、新鮮味に欠けるところがあり、他市との関係で続けざるを得ないところはある。一方で、CO2削減に対して企業が目標を設定して、達成率で金利を下げていくような取り組みもある。運営上の管理コストがかかるので、そういったことに補助を入れていく。企業は環境を削減することだけを目標にしているわけではなく、IRとして採用活動に使っていき、企業イメージをアップして良い人材を確保するといった流れが増加している。そういったことを市制度融資の中にも取り入れていくことを検討してもよいのではないか。

委員 低金利が続いてきたが、今後は徐々に上がってくると思われる。その時に中小企業は金利負担が大変になるので、守っていく必要がある。併せて環境など、いろんな課題に取り組んでもらえるところへの支援が必要だと思う。

委員 産業振興プランがソフトとすれば、都市計画マスタープランはハード中心のプランになる。産業振興とは表裏一体にあり、向いている方向は同じである。委員の皆さんからは一歩先の実施計画としていろんな連携に向け、次のステップに対しての意見をもらった。今回の都市計画マスタープランの中では、駅周辺の拠点化を強く打ち出している。3駅を中心とした拠点の機能強化やその他の地域は地域拠点として位置づけていく。ニュータウンでは近隣センターの再生や尾根幹線の沿道整備では複合機能を入れていくことになっている。これまでは良好な住環境を守るための商業・業務の在り方であったが、時代が変わり、それだけではいけないことを意識している。また部会での若者とのやり取りで、なぜ多摩市が選ばれないかというところを行政はもう少し考えていかななくてはならないと痛感した。

会長 尾根幹線についてはもう少し記載ができないか。

委員 例えば幹線一帯を工場地帯にしたいとか、そういった感じではない。いろんな切り口がある中で、多摩市らしさ、多摩ニュータウンとしてとらえていくときに、既存の事業者との住み分けをどうするかなどあり、記載する内容としては現在のものが現実的になってくる。

委員 都市計画マスタープラン上は、産業、商業、業務用地として、住宅からの転換が予定されている。産業振興と関連し、非常に大きな影響がある。

会長 多摩市の中で今後唯一開発余地がある場所で、貴重な資源である。

委員 経営塾や創業塾を長年やっていることはよいことだと思うが、新しいビジネスを多摩市で始めることができるかという雰囲気や若者が感じ取ることがあるとすれば、現在のようなホームページが続かないようにしていくことが必要になる。10年間にはいろいろなことがあるので、「インキュベーション」など名称が変わっても良いし、その時々ビジネスに関連する言葉が変わってくると思う。このマスタープランがある程度の期間で、時代の流れにあった呼び方や解釈に変更できるように、ふくらみのある

ものが必要である。また、小さいプロトタイプ的なアイデアに支援が付くような取り組みが必要で、短期間に PDCA を回していくことが求められる。可能性のあるものを拾い上げるような融通性を持ったマスタープランにしておかないと 10 年持たない。融通性、許容性、改変性を持たすため、表現の文言を一文入れることによって実現できるようにしておくことが必要ではないか。

- 会 長 10年の計画期間は長い。5年でも長い。改定、見直しをしていくことをしっかりと計画の中に入れておくことが必要で、古いもの、変わったものは削っていく。
- 委 員 こういった課題があったということも掲載してもよい。
- 委 員 良いアイデアがあって、市に相談しても前例がないといって、進まないことがすごく多く、がっかりする。他に手はないかと考える前に心が折れてしまう。
- 委 員 前例がないからビジネスになり、チャンスがある。
- 委 員 若い人たちが魅力を感じる、「ここにしかない」「楽しい」「うれしい」「頑張りたい」といった思いに対して、なかなか前例はない。そういったものは、新しく作っていくしかない。
- 会 長 その思いは皆さんどこかで案じている。前例のないものを受け入れる制度をつくれればいい。税金を使うので根拠となる制度がないとできないが、産業振興では前例のなさを許容し、前例のないものを歓迎する姿勢があってもよい。
- 委 員 失敗でもよい。良いアイデアを出し合って、挑戦していくことをそのプロセスを含めて計画できるとよい。
- 委 員 小さくてもよいので、アイデアを進められるような体制、助成があるとよい。
- 委 員 学生のコンテストで企業が選ばないものには大学が支援をつける。企業が選ばないがここまで考えたアイデアは魅力があるので、どこまで伸びるかやらせてみる。そういったことが大事。10年は長い。生成 AI についても考えていく必要がある。AI を活用すればかなりの手間が削減され、中小企業だけでなく、役所も利用すべき。
- 委 員 10年前は AI など見向きもされなかったが、現在は必須になっている。
- 事 務 局 進行管理の項目で適宜見直しをすることになっている。今ある計画が続くのではなく、評価を行い目標に向けた見直し、新たな計画を策定することになっている。10年間の間には技術革新があり、物事が変わり、課題も変わるため、適宜見直しをしていくことは必要だと考える。AI は大量の電力を使い、データセンターが多くなると思うが、そこには機械だけで従業員はそれほどいない。そういったことを見据えていくことも必要になる。
- 会 長 ビジネスコンテストは事業計画をプレゼンするやり方が一般的だが、やり方が変わってもよい。小さいものやある程度取り掛かっているもの、PLAN・DO コンテストでもよい。
- 委 員 1～2カ月で学生もすごいプランを作ってくる。
- 委 員 PDCA サイクルが1か月くらいが望ましい。
- 委 員 アイデアが面白く、人を見て、良ければ予算を付ければよい。
- 委 員 人だけを見て付けるのが難しければ、行政ではない媒体を用意すればよい。
- 委 員 審査員が自分で選んだものを応援して、ダメだったら次年度は審査員を降ろすなど、

あたるとは限らない。

- 会 長 成長率のようなどれだけ小さいアイデアを膨らませたか、そういうことを判断するコンテストがあってもよい。コンテストでただ審査して終わりではなく、そこからスタートして、伴走支援があり、一緒に作り上げるようなものでもよい。
- 委 員 賞金にしたほうがよい。使い道は自由。飲み会をしてもよい。それも大事。
- 会 長 計画期間の 10 年間でどう使うか。その辺はかなりしっかりと書き込んで、計画を柔軟に変えられることを強調していただけるとよい。
- 委 員 「ビジネスコンテスト」は表現を拡大できるようにしておいた方がよい。市ができることは予算をつけて創出すること。マスタープランを作ったことによる成果が小さくともよいのでできれば、他に波及していくので、プランを共有する場があるとよい。
- 委 員 中期経営計画としてプランを見たときに、10 年は長く、5 年のスパンで実現の度合いを年単位で見ていくことが必要ではないか。進捗管理のチェック体制がすこし弱いと感じている。年単位で軌道修正できるような仕組みがあるとよいと思う。
- 委 員 特に最初の 3 年くらいは四半期、月単位くらいで見ていってもよい。試す期間が必要だと思う。
- 会 長 かなり意見をいただいたので、修正していく必要がある。方向性、文言修正、評価方法について、修正したものをチェックする。全体像については修正されれば納得いくものになると思うので、事務局と会長で相談し、修正したものについて再度皆さんに共有するといった流れで良いか。この素案について賛成の方は挙手をお願いしたい。

(挙手全員)

- 会 長 本件は決定し、議論しなかったことは以上になる。
以上で、第 5 回多摩市産業振興推進会議を閉会する。

(午後 8 時 00 分 開会)

会議録：一財) 日本開発構想研究所作成、経済観光課商工観光担当編集